

〔雲室隨筆〕畫師諸葛監字子文清水又四郎なるものは生質剛悍なる人にて古畫を集め力を盡して修せしと云、元來富めるものにてありしが家産を破りて畫を修せりとぞ、然ども剛悍の性故己を屈する事ならず人をも容れず人にも容られざりき○中其畫を見るに、一石一水といへども、華人の畫せしに法せずといふ事なし、因て其畫甚拙にみゆれども、其守る事の固なる、苟も己よりせしは一もなし、然ども其生質諸侯貴人といへども、己をまげて屈する事なき故、生涯窮困のみ多かりき、

〔運歩色葉集〕遍ヘン急キウ

〔下學集〕下ゲ藝ゲイ短慮タンリョ

〔運歩色葉集〕多タ短慮タンリョ短氣タンキ

〔倭訓栞〕中編十三 たんき 性急をいふ、短氣なり、短慮も同じ、

〔皇都午睡〕三編上 上方で買かうて來るを江戸にては買かうて來る○中いらくするをせつかち。

〔倭訓栞〕中編二十五 みじかきこゝろ 短慮をいふなり、やもめにてゐて、伊勢、

なが、らぬ命のほどに忘る、はいかに短かきこゝろなるらん

〔古今和歌六帖〕鳥六くひな

水鶏だにた、けば明る夏のよを心みじかき人や歸りし

〔孝義錄〕陸十九奥九孝行者九十郎

九十郎は若松の城下大町の者なり、○中父義左衛門去々年より疝氣をやみ、起臥もむつかしく、

しかも氣みじかき者なるを、○下

〔日本後紀〕二十四 弘仁五年閏七月壬午、散位正四位上吉備朝臣泉卒、○中性殊遍急、多忤於物、○下

〔新撰長祿寬正記〕去ル程ニ其歲二年○寬正ノ夏ノ比迄、政長山○島ヨリモ人衆ヲ不出、城ヨリモカ、ラ